

I 生ごみリサイクル： 生ごみを原料に EM 発酵堆肥を作って使う

① 発酵容器

蓋付バケツ型の密閉容器（マジックボックス 18L/11L や BB スペシャル 19L など）を 2 個用意して交互に使う。底に新聞紙半分を切って敷き、EM ボカシ I を 15g~20 g ほど撒いておく。

生ごみ（堆肥材料）

- 大きな皮などは小切りして、新鮮なうちに、水を切って容器①に移す。
- ビニール、ティーバッグ、タバコ等は除く

② EM ボカシ（種菌）接種

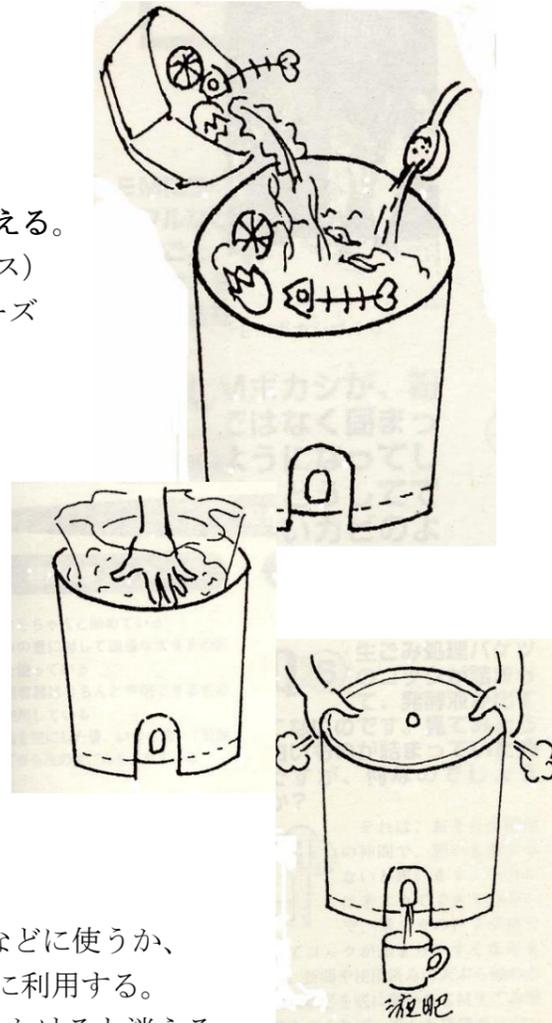
- 500g（三角コーナ一杯）の生ごみに対して、EM ボカシ 20g 位をふりかけ、かき回して和える。
- ※EM ボカシ 500g にテラ C（EM セラミックス）大きじ 1 杯半混ぜて使うと発酵がよりスムーズ
- 肉、魚類など臭いのするものや、夏場には多めの EM ボカシ I をふる。

③ 熟成管理

- 生ごみの上にビニール袋などで中蓋とし、重石などで押さえて空気接触を少なくする。
- 容器の蓋は空気や虫が入らないように、その都度きちんと閉めておくこと。
- ②③を毎日、容器が一杯になるまで繰り返す。一杯になったら夏場 1 週間、冬場 2 週間ほど、直射日光が当たらず温度差の少ないところに置き、発酵・熟成を進める。
- ※温度は 10℃~40℃が発酵適温です。
- 容器の底に発酵抽出液が溜まったら、抽出液を 500 倍位に薄めて下水に流して浄化などに使うか、1000 倍位に薄めて液肥として花木や野菜作りに利用する。夏場に臭う場合は、よく水で流すか、ボカシをかけると消える。
- 完熟すると生ごみの上部に白いかびのようなものがつき、堆肥化成功です。こうなるには少しの湿り気程の適度な水分と、温度がポイントです。

④ 出来た堆肥の利用

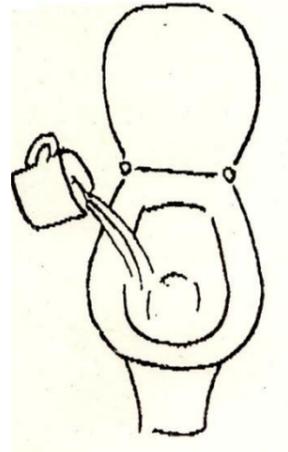
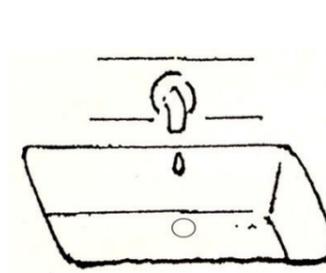
- 畑の畝立ての元肥として、庭木の根方や花壇などに、適宜穴や溝を掘り、土と混ぜながら埋める。なお、その上から米のとぎ汁 EM 発酵液や EM 活性液の 500~1000 倍液を撒いておくと良い土壌となります。
- 生ごみ堆肥を 1 の割合に対して、花の終わったプランターの土や鉢土などを 3 の割合で混ぜて土をかけ、仕立てておけば、いざ花苗などを植えたい時にすぐに利用できます。



I 生ごみリサイクル（続き）

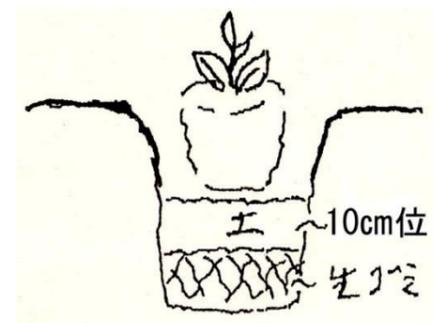
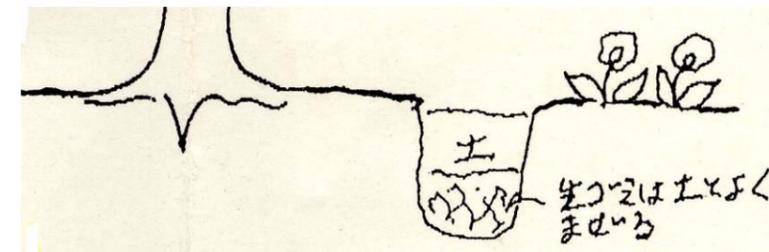
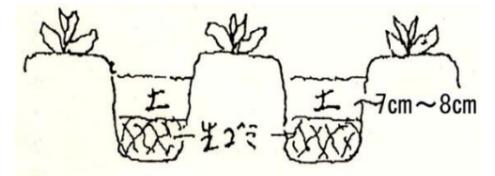
i) EM 液肥の使い方

- 排水口の浄化に
住まいの排水口に、水で 500 倍位にうすめて流す
- 配水管の浄化に
良くできた EM 液肥（または米のとぎ汁 EM 発酵液、活性液など）をトイレや排水口から流すと、配水管のへドロやぬめりが分解されて、詰まりが無くなり、臭いが消えます。
- 花木の液肥に
EM 液肥は 1000 倍以上に薄めて、水やりに使う。
- 池の水、溝や川の浄化に
EM 液肥（抽出液）を 3 ヶ月ほど流し込むと、やがて水が澄んできて、きれいになります。

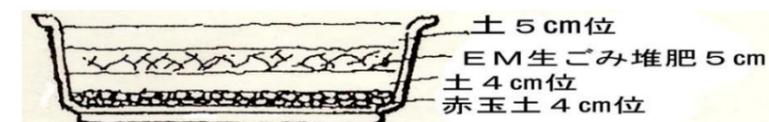


ii) EM 生ごみ堆肥の使い方

- 畑の畝間に
溝を掘り、生ごみ堆肥と土を混ぜ、上に土をかける。その上から米のとぎ汁 EM 発酵液などをかける。
- 苗の植付に
穴を掘り、生ごみ土の上にさらに 10cm くらい土を載せて、その上に苗を植える。
- 庭木の肥料に
幹の周囲のところどころに根元から離してうめる。



④ プランターなどの土作りに



新聞紙を載せ、雨に濡れないようにシートかビニールの袋で包む